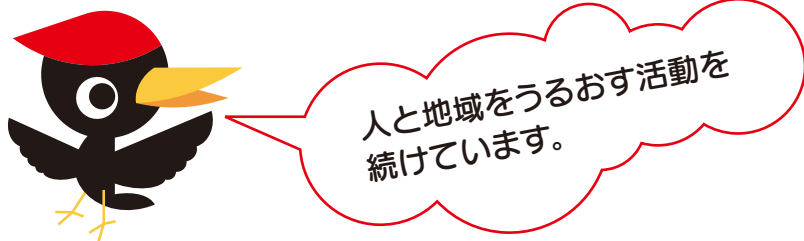


北の大地とともに

CSR レポート 2010



北海道コカ・コーラボトリング株式会社



CONTENTS

02P	[コカ・コーラシステム概要]	
03P	[トップ・コミットメント]	北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業です。
環境		
05P	[環境経営]	自然と共存することのできる事業活動を目指しています。
07P	[環境への取り組み]	水が大地をめぐるように、資源も「循環する社会」へ。
09P		あなたの街で、地域のどこかで、確かな力を未来へ伝えていきます。
11P		事業活動を通じて、環境活動を実践しています。
13P		いま北海道の空気を、水を、そして大地を見つめて。
市場		
15P	[安全な製品の提供]	あしたへ、あなたへ、変わらない「品質」と「安心」をお届けします。
17P	[魅力ある地域づくり]	地域に元気をつくる、笑顔のふれあいを大切に。
社会		
19P	[地域社会への貢献]	地域の声を、まっすぐに受けとめて。
21P		地域社会に、「安全と安心」の輪を広げます。
23P		全道へ、お役に立つネットワークづくり。
25P		地域のみなさまにお役立ちできる自動販売機を目指して。
職場		
27P	[職場環境への取り組み]	誰からも親しまれ、信頼される企業であるために。
29P	[工場見学]	楽しい工場見学を目指しています。ぜひお越しください。
30P	[プロフィール]	

【CSRレポート バックナンバー】
 バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>

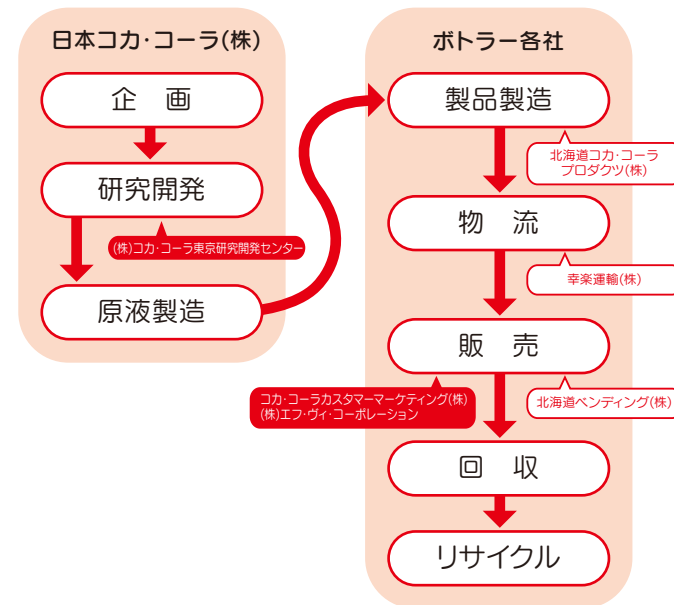


CSRレポート2008



CSRレポート2009

コカ・コーラシステム概要



環境問題や健康意識の高まりなどによって、私たちコカ・コーラシステムをとりまく事業環境は大きく変化し、お客さまからコカ・コーラシステムに期待されることも変わりつつあります。私たちコカ・コーラシステムがこれからも成長し続けていくためには、安全・安心な製品を提供することはもちろんのこと、企業の社会的責任を果たすことでお客さまからのニーズに答えていくことが不可欠です。

コカ・コーラシステムでは世界各国のボトラー社の代表と協議を重ね、企業としてだけでなく、社会とともに持続的に成長するために、全世界共通の新しい事業指針として「Live Positively(リブ・ポジティブリー) -世界をプラスにまわそう-」を導入しています。

環境



- 地球の温暖化防止・エネルギー削減
- 容器の軽量化・空容器回収・リサイクル
- 水資源保護

市場



- 安全な製品の提供
- あらゆる人々のニーズに応える製品価値の提供
- 消費者のアクティブで健康的な生活のサポート

社会



- 地域社会への貢献

職場



- 安全かつ魅力ある職場環境づくり

北海道に生まれ、 北海道に育てられた道産子企業です。

経営理念

私たちは、21世紀の創発的な社会に貢献する。

経営指針

私たちは、

1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

中期経営計画

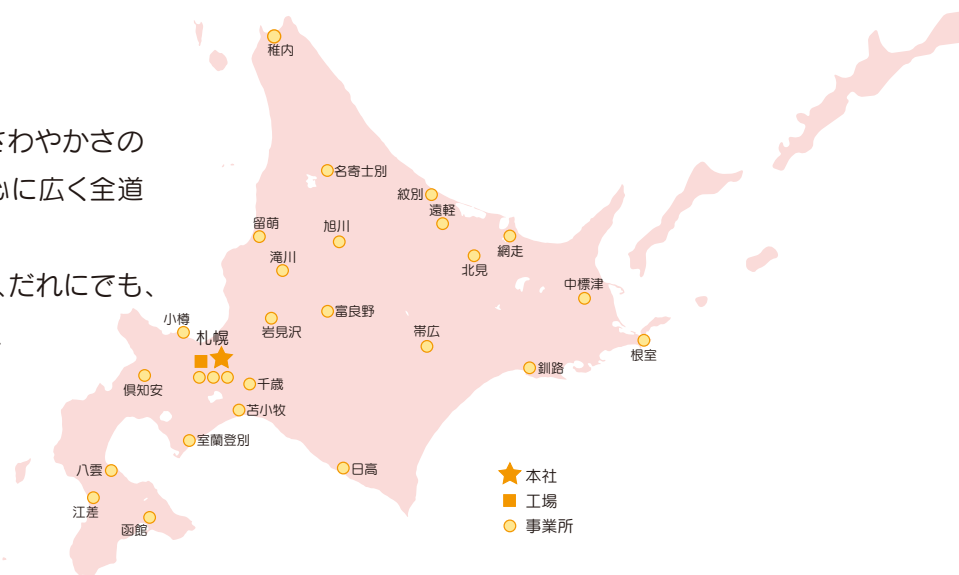
Restart 2009～北の大地とともに～

「私たち北海道コカ・コーラグループは、収益力の強い経営基盤を確立し、北海道の魅力をもさらに高める活動を、継続的に実行します」

さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリングのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に広く全道各地に拠点網を形成しています。

この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



ごあいさつ

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、「北の大地とともに」成長することを願い、道産子企業として、地域やパートナーのみなさまとの「対話」を大切にし、北海道の魅力をもさらに高める活動を継続的に実行することで、北海道で生活されるみなさまや北海道を訪れるみなさまから信頼され、選ばれる企業グループとなることを目指しています。

私たちは、北海道の広大な大地に育まれたおいしい「水」と、北海道で生産された良質な砂糖やミルクなどの原材料を使って、北海道にある工場で、各種の清涼飲料やミネラルウォーターを製造して、事業活動を展開しています。

私たちが果たすべき役割は、みなさまに、常に、安全・安心かつフレッシュな製品を、ご提供することを基本として、北海道の大切な「水」を守るために環境にかかわる活動に精一杯の努力をし、これまで以上に北海道のお役に立てる活動をしていくことを考えています。

そのためにも、社員一人ひとりが、自分のやるべきことをしっかりと見定め、いきいきと働きながらも成長できる職場環境を整えることが重要だと思っています。

これからも、北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業として、このすばらしい北海道の魅力もしっかりと次世代に受け継ぐことのできる「持続可能な社会」を目指して、積極的な活動を続けていきたいと考えています。

このレポートをお読みいただき、当社グループの考え方や活動に対して、より多くの方々のご理解をいただき、ご意見やご協力をいただければ幸いです。

代表取締役社長

角野 中原
Kakuno Chugen



自然と共存することのできる事業活動を目指しています。



環境方針

環境理念

北海道コカ・コーラグループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

1. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
2. 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
3. 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
4. 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
5. 環境に配慮した物品の購入を促進します。
6. 環境関連法規制、コカ・コーラシステムが定める基準及びその他の要求事項を遵守します。

2009年7月1日制定

ISO14001 認証取得

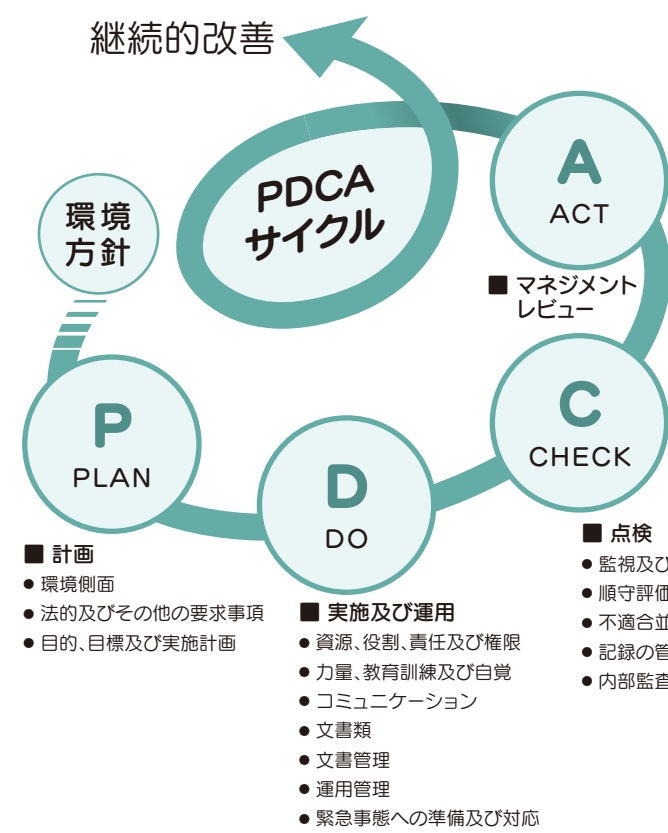
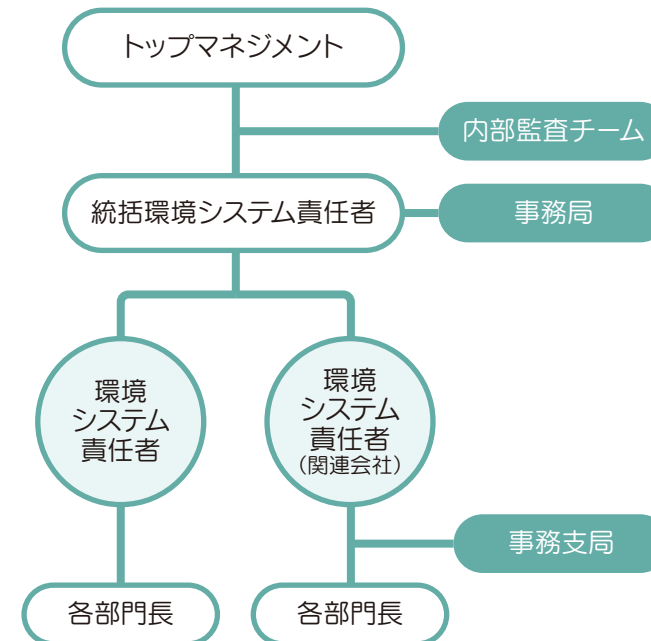
2010年2月、本社敷地内に所在する、当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際標準規格である[ISO14001:2004]を認証取得しました。

組織として決定した環境方針のもとで、事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を把握・評価・是正し、継続的に改善していくことによって、省資源・省エネルギーをはじめとする環境負荷の低減に努めていきます。また、廃棄物の削減、再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識向上などに積極的に取り組んでいきます。



ISO14001:2004認証

ISO14001における環境保全推進体制



eKOシステムで3つの負荷低減

当社の環境理念・環境行動指針をより積極的に実践するために、コカ・コーラシステム独自の環境マネジメントシステム「eKOシステム」を導入しています。eKOシステムは、清涼飲料業界の主な環境負荷である3つの項目を中心に、さまざまな環境改善プログラムを実施します。

水の使用量
水の有効利用に取り組むとともに、排水量を削減します。

エネルギー使用量
エネルギー利用の効率化を図り、CO₂などの大気への排出量を削減します。

廃棄物発生量
原材料使用量を適切に管理し、廃棄物の削減・再資源化も推進します。

※eKO(イー・ケー・オー)とは、ニューヨーク証券取引所における「サ・コカ・コーラカンパニーの呼称"KO"に、"environment"(環境)の頭文字を組み合わせたものです。

水が大地をめぐるように、 資源も「循環する社会」へ。

北の豊かな自然を守るため、
循環型社会の実現を目指しています。



北海道の自然環境を保護する [e-水プロジェクト]スタート

2009年12月より、当社は豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り、次世代へと引き継いでいく「北海道e-水(イーミズ)プロジェクト」を北海道と協働で推進しています。

このプロジェクトでは、「ジョージアサントスプレミアム北海道デザイン缶」の売上の一部を、(財)北海道環境財団へ寄付し、北海道と連携のもと、道内各地で環境保全に取り組む団体と協働で、水辺の観察会や清掃活動などに取り組みます。



北海道コカ・コーラボトリング(株)は、水の循環を守る北海道e-水プロジェクトを推進しています。



植物由来のPETボトルを導入

2010年3月より素材の一部(5~30%)に植物由来の素材を使用した「プラントボトル」を採用しています。非再生資源である石油への依存を低減しながらも、これまでと同様に既存のPETボトルリサイクル工場で100%のリサイクルが可能なボトルです。

「爽健美茶」「爽健美茶 黒豆」及び「い・ろ・は・す(I LOHAS)」に、それぞれ導入されています。



北海道生まれのおいしい天然水を提供

「い・ろ・は・す」は、札幌工場(札幌市清田区)で採水された地元北海道のおいしい天然水^(※1)です。地産地消による輸送エネルギーの低減をはじめ、国内最軽量12g^(※2)で、飲用後には軽い力でコンパクトにしぼることができる^(※3)ペットボトル「ecoるボトルしぼる」の採用など、環境にも配慮しています。



お客さまに支えられ、発売後わずか5ヶ月(2009年10月時点)で、道内で1千万本(520ml PET)の販売を達成することができました。当社従来品に比べ、520ml PETボトル1千万本で127トン^(※4)のCO₂削減効果が見込まれ、これは約39ヘクタール(札幌ドーム約7倍)の森林が吸収するCO₂量に相当します。

「ecoるボトルしぼる」に対し、日本コカ・コーラ(株)は、第19回地球環境大賞の環境大臣賞をはじめ、多くの賞を受賞しました。また、当社は良質で豊かな清田の地下水を活かした食品産業として、札幌市清田区の「清田ふるさと遺産」に登録されています。

※1)北海道地域販売分
※2)2010年4月時点 日本コカ・コーラ(株)調べ
※3)自治体の空容器の分別回収方法に従う。
※4)工程エネルギー(PET樹脂を作るのに必要なエネルギー)から算出

「水」のイベントを全道で開催

未来を担う子どもたちに水資源について知ってもらうため、全道の公共施設や商業施設で「水の授業」を実施しています。授業では、国内外の水の飲み比べをはじめ、空容器の分別体験、エコバック工作、世界の水資源に関するクイズなどを通じて、親子で水の大切さを考える機会を提供しています。



従業員から

厳重な品質管理を行っています

北海道コカ・コーラプロダクツ(株)
品質管理部 品質管理課
武田 健治



私は、主に製品が市場に流通する前の微生物検査や製品検査の業務を行っています。札幌工場で製造している「い・ろ・は・す」は、地下300メートルの井戸からくみ上げられた美味しい天然水です。日々、お客さまに安全で安心な製品を提供できるよう厳重な品質管理を行っています。私は、安全で高品質な製品を北海道のみなさまに自信を持って提供すること仕事を誇りに思っています。

あなたの街で、地域のどこかで、 確かな力を未来へ伝えています。

子どもたちの
環境コミュニケーションを
広がっていきます。



雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、北海道栗山町とともに、栗山町の廃校だった「雨煙別小学校」を、環境教育などを体験学習する宿泊型施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」として再生し、2009年より自然環境教育プログラムを展開しています。



雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス

また、財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では毎年地域の環境教育・保全活動を行っている個人・団体を表彰し、その活動を応援しています。2009年8月に同ハウスで開催されたコカ・コーラ環境フォーラムで、道内では「こどもエコクラブくしろ(釧路市)」と「栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会(栗山町)」の2団体がコカ・コーラ環境教育賞を受賞しました。表彰式にはプレゼンターとして、元サッカー日本代表の中田英寿氏が登場し、同じく元サッカー日本代表の前園真聖氏も合流し、地元栗山町の小学生とともにサッカー教室を開催しました。



コカ・コーラ環境フォーラム2009

「わくわく体験ランド北海道」を開催

2006年より、当別町(道民の森)の「コカ・コーラの森」では、親子で苗木を植樹するほか、ネイチャーゲームを通して「自然とふれあうことの楽しさ」を体験する取り組みを行い、毎年200本の植樹を行っています。



環境イベントへの参加

2010年2月、札幌市青少年科学館で開催している「環境科学展-わくわくエコ広場」に参加しました。会場では、環境に関するパネルを展示し、環境問題について興味を喚起するクイズ大会を実施しました。また、「環境広場さっぽろ2009」をはじめ、「はこだてエコフェスタ」など、各地域の環境イベントやシンポジウムへも積極的に参加しています。



環境広場さっぽろ

青少年の環境活動を応援

札幌市内の小学生サッカーチームが、環境活動レポートやゲームを通じてポイントを競い合う「かんきょうみらいカップ2009」を継続して応援しています。また、当社が北海道地区の幹事として活動している、社団法人食品容器環境美化協会の「第10回環境美

化教育優良校表彰」で、北海道から「旭川市立春光台中学校」と「斜里町立峰浜小学校」が選ばれました。



かんきょうみらいカップ2009

札幌市円山動物園との協働事業

2008年4月、札幌市と「もっと素敵な動物園づくり」を目指し、札幌市円山動物園における「環境協働事業に関する協定」を締結しました。



ネイチャーカフェ・アース

同年7月にはこの協定の一環として、園内に、環境について楽しく学べる「ネイチャーカフェ・アース」をオープンし、地元食材のメニューなどを提供しています。

ネイチャーカフェ内では定期的にイベントを開催しており、



メッセージムービーサミット

2010年2月には、学生たちが環境等をテーマにした映像作品を発表する「メッセージムービーサミット」を開催しました。

また、同年2月1日～11日には、スノーフェスティバルが開催され、園内に設置された「チューブスライダー&氷のすべり台」の運営をお手伝いするなど、イベントを盛り上げました。

オオワシ・プログラムへの協力

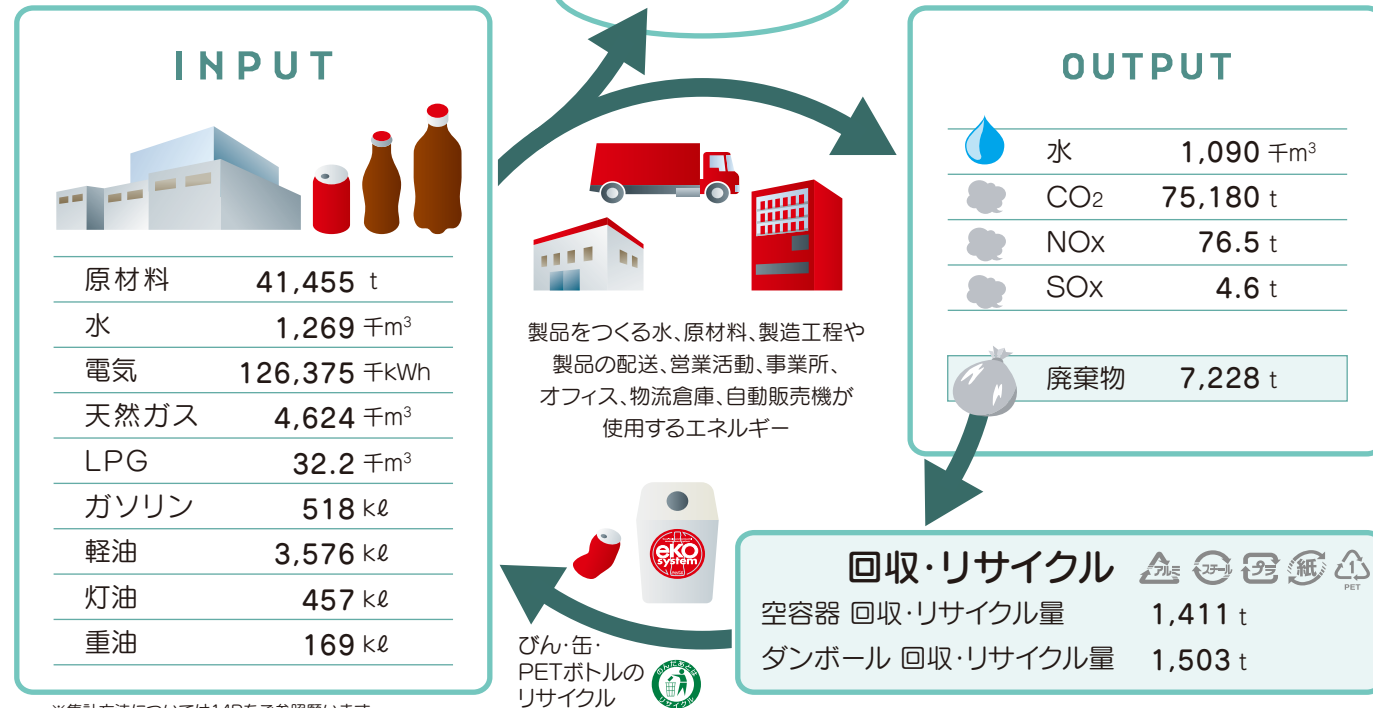
札幌市円山動物園は、現在「オオワシ・プログラム」に取り組んでいます。これは他の研究機関と連携しながら、北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを独自の技術で繁殖・育成し、飛行訓練等を施したのち、自然界に放鳥、野生復帰を実現するもので、当社もこのプロジェクトに協力しています。



事業活動を通じて、 環境活動を実践しています。



マテリアルバランス



札幌工場は「ゼロエミッション」

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年11月末時点で目標を100%達成しました。今後も「ゼロエミッション」活動を継続していきます。



地産地消の取り組み

札幌工場では、原材料として北海道産のてん菜(砂糖)やミルクを100%使用しています。



工場廃棄物排出量 (単位: t)

	2007年	2008年	2009年
コーヒーかす・茶かす	3,920	3,334	3,119
紙類	226	217	166
プラスチック類	130	116	136
金属類	86	95	92
汚泥	29	25	25
ガラス類	16	10	8
一般廃棄物 他	1	2	1
合計	4,408	3,799	3,546

※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

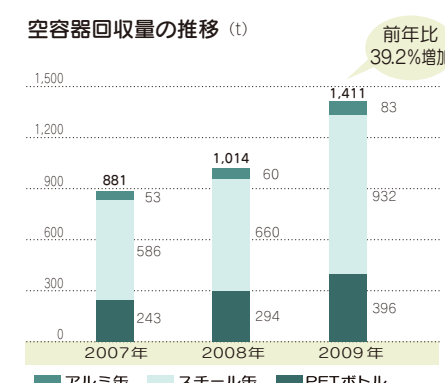
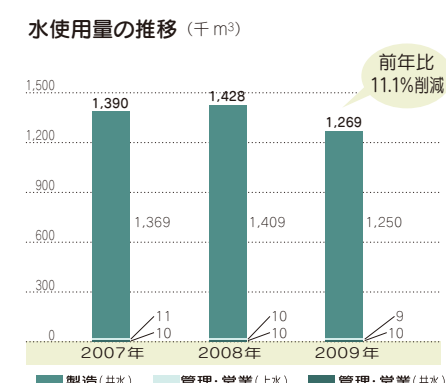
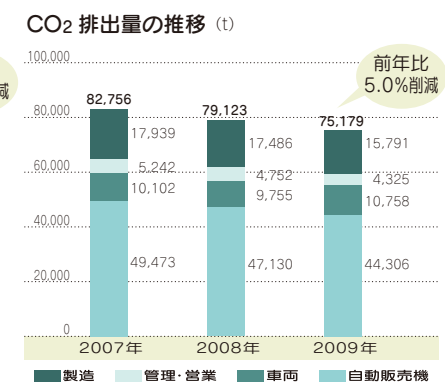
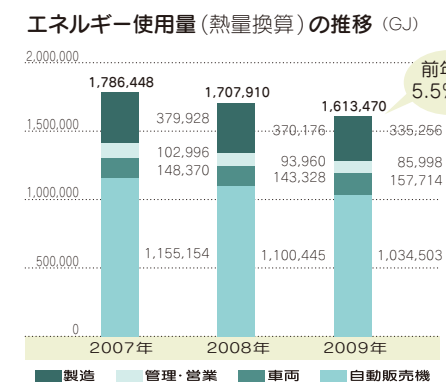
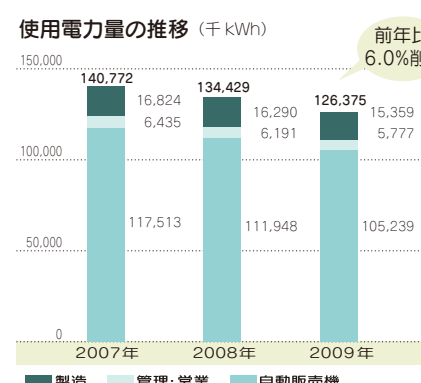
使用済み空容器のリサイクル推進

大切な資源である空容器の回収とリサイクルを推進しています。回収した空容器は、自社または専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別され、再度資源として有効活用されます。

国内の容器別リサイクル率 (2008年度)

アルミ缶	87.3%	アルミ缶リサイクル協会
スチール缶	88.5%	スチール缶リサイクル協会
PETボトル	77.9%	PETボトルリサイクル推進協議会
ガラスびん (カレット使用率)	73.8%	ガラスびんリサイクル促進協議会

廃棄自動販売機は、金属・非金属などに分別され、約90%がリサイクルされています。また、回収されたフロンは適正に処理しています。

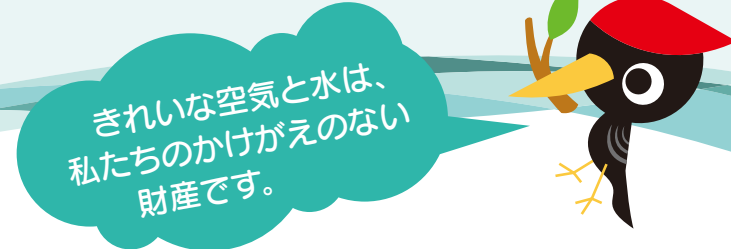


お取引先さまから

ホクレン農業協同組合連合会
道央支店 砂糖類販売課
課長 新見 憲司 様

私どもホクレンは北海道の生産者が生産した農畜産物を各農協と連携を取り、集荷・加工・流通・販売を行い、安全・安心で美味しい食品を安定的に全国の消費者へお届けしております。また、「地産地消」や「食育」の観点から道民のみなさまへ北海道米の消費を呼びかける「米チェン!」キャンペーン等も行っております。貴社におかれましては、日頃より北海道産のてん菜から製造された砂糖や、良質な生乳から作られた殺菌乳や脱脂粉乳等、地元の原料を積極的にご利用いただくことで、北海道農業の活性化に大いに貢献いただき、大変感謝しております。また、売上の一部を寄付されたり、環境保全等、「地産地消+地域貢献」などの取り組みに対しても敬意を表し、同じ北海道企業として貴社のような活動の輪が全道に広がることを期待しております。

いま北海道の大気を、水を、そして大地を見つめて。



北海道のきれいな「水」を守るために 水使用量の削減

札幌工場では、容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や、冷却水などを循環利用するため、2003年に節水設備を導入しました。これにより、約2,400 m³/日(20時間稼働時)の節水が可能になりました。

工場排水処理

札幌工場では、「ラグーン処理方式」と呼ばれる専用施設で排水を処理し、国の排水基準を遵守しています。これは微生物の自己浄化サイクルを利用した余剰汚泥発生量が少ない排水処理システムです。



	排水基準 許容限度(日間平均)	2007年 最大値(日間平均)	2008年 最大値(日間平均)	2009年 最大値(日間平均)
COD	160 (120)	15.0 (9.5)	14.6 (9.4)	17.9 (11.3)
BOD	160 (120)	3.8 (2.4)	4.7 (1.8)	9.1 (1.8)

※COD:化学的酸素要求量
BOD:生物化学的酸素要求量

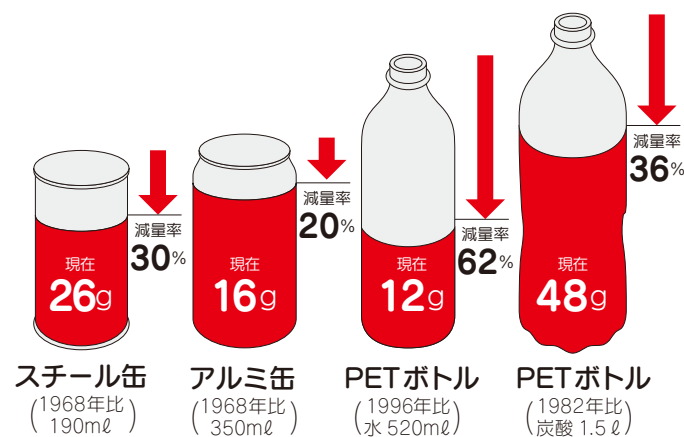
グリーン調達・グリーン購入

当社のユニフォームには、PET再生繊維(ポリエステル)を53%以上使用しています。空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックを使用しています。また、文具・事務用品は、再生品など環境面に配慮された製品を購入しています。



容器の軽量化

コカ・コーラシステムでは、省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。特に、ミネラルウォーター「い・ろ・は・す」の520ml PETボトルには12gのボトルを採用し、国内最軽量(※)となっています。



※520ml PETボトルは2010年4月時点/国内製造品550ml以下PETボトルを対象。(日本コカ・コーラ(株)調べ)

環境会計

2009年における当社環境保全活動の取り組み内容と結果を環境会計(環境省ガイドライン参考)で表しました。

環境保全コスト

工場排水処理施設の監視を強化するための設備投資を行ないました。

コカ・コーラシステムにおける「容器包装リサイクル法」負担金の取り扱い変更により、再商品化委託費が大幅に増加しています。

環境保全コスト

項目	主な取り組みの内容	2007年		2008年		2009年	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	2,020	155,881	22,618	137,827	23,164	121,473
	(1)公害防止コスト		71,186		61,255		53,396
	(2)地球環境保全コスト	2,020	33,433	22,618	28,791	6,444	25,733
			18,966		16,136		11,023
			1,691		1,290		4,012
	(3)資源循環コスト		22,477		26,321		24,553
			8,128		4,034		2,756
2.上・下流コスト	計		79,867		74,519		121,163
	空容器の回収・リサイクル		35,598		27,209		30,079
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋		43,763		46,943		43,404
	再商品化委託費 他		506		367		47,680
3.管理活動コスト	計		30,712		35,613		37,833
	環境負荷の測定		21,932		25,367		25,685
	eKOシステム構築・運用、環境コミュニケーション		8,780		10,246		12,148
4.社会活動コスト	計		5,499		17,221		16,791
	業界団体活動、環境支援活動 他		4,448		16,170		16,271
	本社構内緑化保守		1,051		1,051		520
	合計	2,020	271,959	22,618	265,180	23,164	297,260

環境保全効果

物流の算出範囲が拡大したことにより、NOx排出量が増加しましたが、省エネ自動販売機及びクリーンエネルギー車の導入、オフィスでの省エネの徹底、エコドライブの推進により、CO₂排出量、総エネルギー使用量を削減することができました。今後も、環境への負荷を低減するため、効果的な環境改善活動を継続していきます。

効果1 環境保全効果

項目	単位	2007年	2008年	2009年		
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率(%)	
総エネルギー(熱量換算)	GJ	1,786,448	1,707,910	1,613,470	-5.5%	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	82,756	79,123	75,179	-5.0%	
NOx排出量	燃焼設備	t	8.0	7.6	6.6	-12.6%
	車両	t	64.6	62.1	69.9	12.6%
水使用量	m ³	1,389,858	1,428,472	1,269,213	-11.1%	

効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	2007年	2008年	2009年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等)	50,174	62,949	20,114

<集計方法について>
 ・CO₂は電力・燃料より、NOx・SOxは燃料より算出しています。(SOxは排出量が微量であるため、環境保全効果の表には記載していません)
 ・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
 ・電力由来のCO₂排出量は、電気事業連合会のCO₂排出原単位(2004年度)より算出しています。
 ・NOx排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
 ・SOx排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
 ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
 また、物流組織の変更により、2009年度から算出範囲が変更となっています。(道外移入など算出範囲が広がっています)

あしたへ、あなたへ、 変わらない「品質」と「安心」をお届けします。

より高品質の「おいしさ」と
「さわやかさ」づくりに
取り組んでいます。



全社で[ISO9001:2008]の認証を取得

2007年2月、当社は全社(製造・販売・管理部門)を対象に、品質マネジメントシステムの国際規格[ISO9001:2000]の認証を取得し、2009年10月には[ISO9001:2008]への移行認証を受けました。今後も、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいきます。



ISO9001:2008認証

テムであるTCCMS(The Coca-Cola Management System)によって工程管理・監視を行い、製品の安全性を追求し品質の向上を図っています。また、安全・安心の品質を守るために、複数の検査士による味覚検査をはじめ製造設備の徹底したメンテナンスの実施、さらに使用する水質の安全性の保証に努めています。このほか改善活動発表会などを通じて、業務の改善活動を継続的に推進しています。



徹底した品質管理での無菌充填

新鮮な製品をお届けするために

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の防止に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、自動販売機へ商品を装填する営業担当者が、適正本数の装填と補充時のチェック活動を行っています。そのほか、工場倉庫出荷から自動販売機へ装填されるまでの管理や在庫の適正化、缶ウォーマーの温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。



賞味期限管理

ISO 10002への適合を宣言

私たちは、お客さまから寄せられるご指摘・ご提案・お問い合わせなどの声を大切にしています。お客さまへの対応について、ご指摘(苦情)対応に

関する国際規格[ISO10002]に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言いたしました。

基本理念

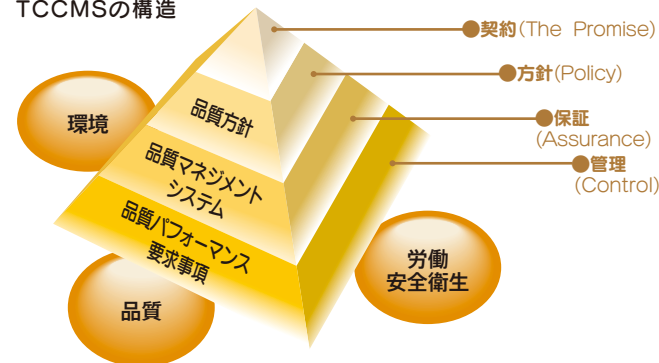
私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。お客さまとのコミュニケーションを大切にし、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみなさまから「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

基本方針

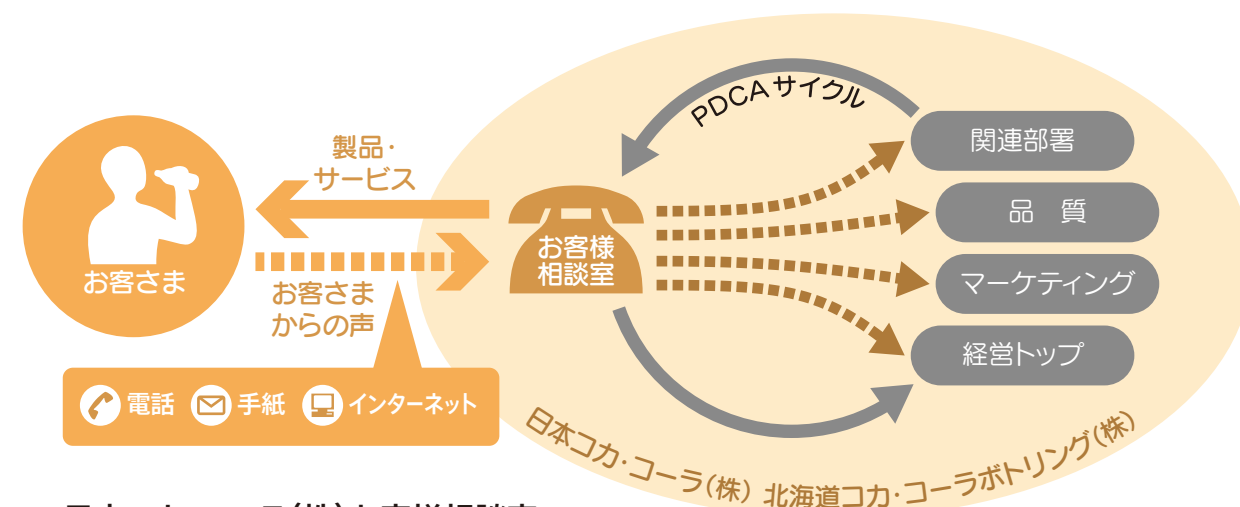
- (1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

製造部門の取り組み

札幌工場は、コカ・コーラ独自の総合品質保証システムTCCMSの構造



※TCCMSには、ISO9001(品質マネジメントシステム)、HACCP(危害分析重要管理点方式による管理)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の要求事項が含まれています。



日本コカ・コーラ(株)お客様相談室

0120-308509
(土日祝祭日を除く9:30~17:00)

URL <http://www.cocacola.co.jp>

地域に元気をつくる、 笑顔のふれあいを大切に。

北海道が好きだから、
地域の感動体験を
サポートしています。



プロスポーツ団体とともに北海道を応援

2007年より、当社は「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、毎年、応援キャンペーンとイベントデー「コカ・コーラ HAPPINESS GAME」を開催しています。また、2009年7月には「フレッシュオールスターゲーム2009」の中で、全球団マスコットによる飲料の販売を行いました。また、北海道のプロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」とは、2003年よりスポンサー契約を結び、マーク入り自動販売機(ドーレBOX)を設置し、売上金の一部を運営資金として協賛しています。これからも北海道のプロスポーツの振興と地域の活性化を応援していきます。



42年目、福祉施設にプレゼント

1968年より毎年道内各市町村の福祉施設に、クリスマスプレゼントとして当社製品をお届けしています。2009年は約11万本の寄贈を行い、累計は226万本となりました。



QooとB・Bが食育体操

2007年よりQooが、「北海道日本ハムファイターズ」の球団マスコットキャラクター「B・B」と一緒に道内各地の幼稚園や保育園を訪問し、「ちゃんと食べよう体操」(通称:Qoo食育体操)を通じて、子どもたちの食育を応援しています。これまでに約300カ所を訪問し、39,000名以上の子どもたちと交流しました。



学生への教育支援活動

「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」を、1963年より協賛しています。また、「財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団」の北海道支部として、学生に奨学金を支給する育英活動を行うとともにインターンシップの受け入れなど、教育支援活動を推進しています。



さっぽろ雪まつりを応援

2010年2月の「第61回さっぽろ雪まつり」に向け、雪像作りを実施している自衛官のみなさまに温かい飲料を提供しました。雪まつり初日は、オープニングセレモニーでYOSAKOIソーランチーム「コカ・コーラ札幌国際大学」が演舞を披露しました。また、期間中は2会場に販売ブースを設けたほか、「NPO法人 グリーンバード」と当社社員ボランティアによる清掃活動を展開しました。

このほか、地下鉄大通駅コンコースで公共交通機関の利用促進の訴求や、「雪まつり応援デザイン自動販売機」を設置。また、北海道限定の「雪まつり応援デザイン缶」の発売など、さまざまなかたちで雪まつりを応援しました。



雪まつりを応援する自動販売機を設置しました。



大通・つどいむ両会場で温かい飲み物などを販売しました。



自衛官のみなさまに飲料を提供しました。



NPO法人グリーンバードと一緒に会場内の清掃活動を行いました。

地域の声を、まっすぐに受けとめて。

地域の除雪ボランティア

従業員と札幌国際大学の学生が連携して、本社近隣の高齢者宅などの除雪ボランティアを実施しました。



YOSAKOIソーラン祭りに参加

初夏の札幌を彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。当社は地元の札幌国際大学と協働し、「コカ・コーラ札幌国際大学」チームとして第3



回から連続参加しており、2009年の第18回はファイナル第9位に入賞しました。



成人式でジョージアサンプリング

2010年1月、札幌市清田区役所で開催された成人式では、2010本のジョージアコーヒーの無料サンプリングを実施して、成人のみなさまをお祝いしました。



白旗山フェスティバル

2009年10月、白旗山フェスティバルに参加し、清田の水に関するクイズ大会などを行いました。



不法投棄の防止を呼びかけ

十勝支庁環境生活課からの要請により、2009年7月より帯広事業所で「とかち不法投棄やめさせ隊」の活動を開始しました。事業所内の約30台の車両にステッカーを貼り、不法投棄の防止を呼びかけています。



蒸気機関車の生誕イベントを応援

2009年8月、小樽市総合博物館において1909年製の蒸気機関車「アイアンホース」号の生誕100年祭が開催され、当社もコカ・コーラクラシックグッズ等の展示を行って、応援しました。



「人にやさしく」を合言葉に、地域の夢を結びます。



網走市断水時の飲料水提供

2010年2月5日、網走市断水時の飲料水支援として、当日中に「い・ろ・は・す」を市の福祉施設へ約1,000本お届けしました。

知床世界自然遺産の環境保全活動を応援

知床地区における自然保護活動に対する応援事業として、斜里町および羅臼町と、町内に設置したすべての自動販売機において売上金の一部を寄付する協定を締結しています。



従業員から

人と人の繋がりを大切に

リテール事業部 旭川販売部
旭川市場開発課 鈴木 聖平



私は営業担当者として「地元で根ざした活動」を心がけ、コカ・コーラ製品や自動販売機を通じて地域住民のみなさまのお役に立てる活動を目指していきます。営業活動から、人と人の繋がりを大切にし、「北海道コカ・コーラ」を選んで頂くことで、「さわやかさと潤い」を提供し、元気と笑顔にあふれた地域社会を目指した活動に取り組んでいきます。

地域からの声

札幌国際大学 学長
濱田 康行 様



本学の所在地は清田区内で貴社の近隣にあり、YOSAKOIソーラン祭りでは十数年にわたりご支援を頂いている他、近年は近隣雪かきボランティアなど社会貢献活動でもご協力させていただいております。昨年は「清田の天然水」としてマスコミでも話題となったミネラルウォーター「い・ろ・は・す」を発売され、当地区の水のおいしさを存分にアピールいただきました。その他、北海道の魅力を高めるべく自治体や各団体との協働事業も積極的に展開されており、目を見張る成果を上げておられます。清田地区のみならず北海道全体が、明るく元気をとり戻せるように、本学も及ばずながら協力させていただきたいと考えております。

地域社会に、「安全と安心」の輪を広げます。

多彩な協働で、
住みよい社会づくりを
応援しています。



全道に広がる「子どもの安全を見守る運動」

当社は「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトのもと、官民が一体となって「子どもの安全を見守る運動」を推進することを北海道へ提案し採択されました。2006年7月より、当社ではグループをあげて全道の事業所と車両(約1,200台)にポスターやステッカーを掲出し、子どもたちの安全を見守っています。今では25,000台の車両が参加する「道民運動」に拡大しています(2010年3月末現在)。



車両ステッカー

防犯運動を全道に展開

「子どもの安全を見守る運動」の補完と、さらなる安全・安心な地域づくりを目指して、電光掲示板付き自動販売機を活用した「防犯ほっとインフォメーション」を各警察署と協働で展開しています。また、安全なすすきのを目指して、「すすきの交番」横に設置された自動販売機の売上の一部を「クリーン薄野推進協議会」へ寄付する活動を行っています。さら

に、自動販売機を狙った窃盗事件が多発していることから、札幌北警察署・連合町内会・自主防犯団



防犯啓発ポスター

体等と協働で、当社自動販売機約140台に防犯啓発ポスターを掲示しました。

北海道全域の防災パートナー

2006年12月、当社は地域の飲料水備蓄基地の代行を柱に、道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結しました。この協定に基づき、電光掲示板付き自動販売機設置を活用した、各市町村との協働の取り組みを展開しています。また、北海道が主催する「北海道防災総合訓練」をはじめ、各地域の防災訓練に参加して、飲料物資の輸送訓練などを実施しています。



従業員から

地域のために何ができるかを考える

2009年、函館市との協働の取り組みとして、「函館開港150周年記念式典」の支援活動を行いました。「函館情報ステーション」でのカウントダウン企画や「函館開港150周年記念デザイン缶」の発売、また、イベント期間中は、飲料やアイスの販売をはじめ、ヨーヨー釣りなどのゲームを行い、地域の方との交流を通じてイベントを盛り上げました。今後も、地域のために何ができるのかを考え、営業活動を進めていきます。

リテール事業部 函館販売部
函館市場開発課 坂東 豪



各都市との協働

札幌市との協働

2009年1月、札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。この協定に基づき、清田区役所より地域情報などを発信する「きよっち情報ステーション」を推進しています。



札幌市児童会館地域情報ネットワーク「おしらせじはんきびかまる」

さらに、2009年6月より札幌市子ども未来局・(財)札幌市青少年女性活動協会・当社の三者協働で、電光掲示板より子育て情報などを配信する「札幌市児童会館地域情報ネットワーク」をスタートしました。

旭川市との協働

2008年4月、旭川市と「魅力的なまちづくりに関する基本協定」を締結し、旭川市旭山動物園に休憩施設「やすらぎの森」を寄贈したほか、園内で特別ラッピング自動販売機や、自動販売機を再利用したリサイクルボックスを設置しています。また、旭川実業高等学校の生徒と連携し、校内に設置した自動販売機の収益の一部を動物園に寄付する「あさひやまもつと夢基金」を応援しています。このほか、市から



の様々な地域情報を配信する「デジタル通信あさひかわ」を展開しています。



函館市との協働

2009年3月、函館市と「協働・共創のまちづくりに関する協定」を締結しました。この協定に基づき、同年8月に開催された函館開港150周年記念事業の応援などを行いました。



はこだて情報ステーション

小樽市との協働

小樽市の魅力あるまちづくりを推進するために「小樽ファンが支えるふるさとまちづくりへの寄付に関する協定」を市と締結し、自動販売機の売上の一部を寄付しています。また、2009年度地方の元気再生事業(内閣府)に認定された「小樽うみ元気プロジェクト」を応援するため、自動販売機の売上の一部を寄付しています。



小樽うみ元気プロジェクト自動販売機

全道へ、お役に立つネットワークづくり。



地域防災力の強化を支援

平常時からの地域防災力強化を目指し、北海道や各市町村との協働事業として、防災情報や災害情報、地域情報などを配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料提供する「防災協力自動販売機」を展開しています。



「道の駅」で地域情報を提供

各市町村と国土交通省北海道開発局との協働による道の駅などで新たな情報提供事業として、道路利用者の方々に道路情報や地域情報を配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料提供する「おしらせ道ねっと」を展開しています。



安全・安心な地域づくり

北海道警察並びに地域の警察署と日頃から地域の防犯意識を高め、さらなる安全・安心な地域づくりを目指した協働事業として、防犯広報や身近な生活犯罪情報、事件情報などを配信する「防犯ほっとインフォメーション」を展開しています。

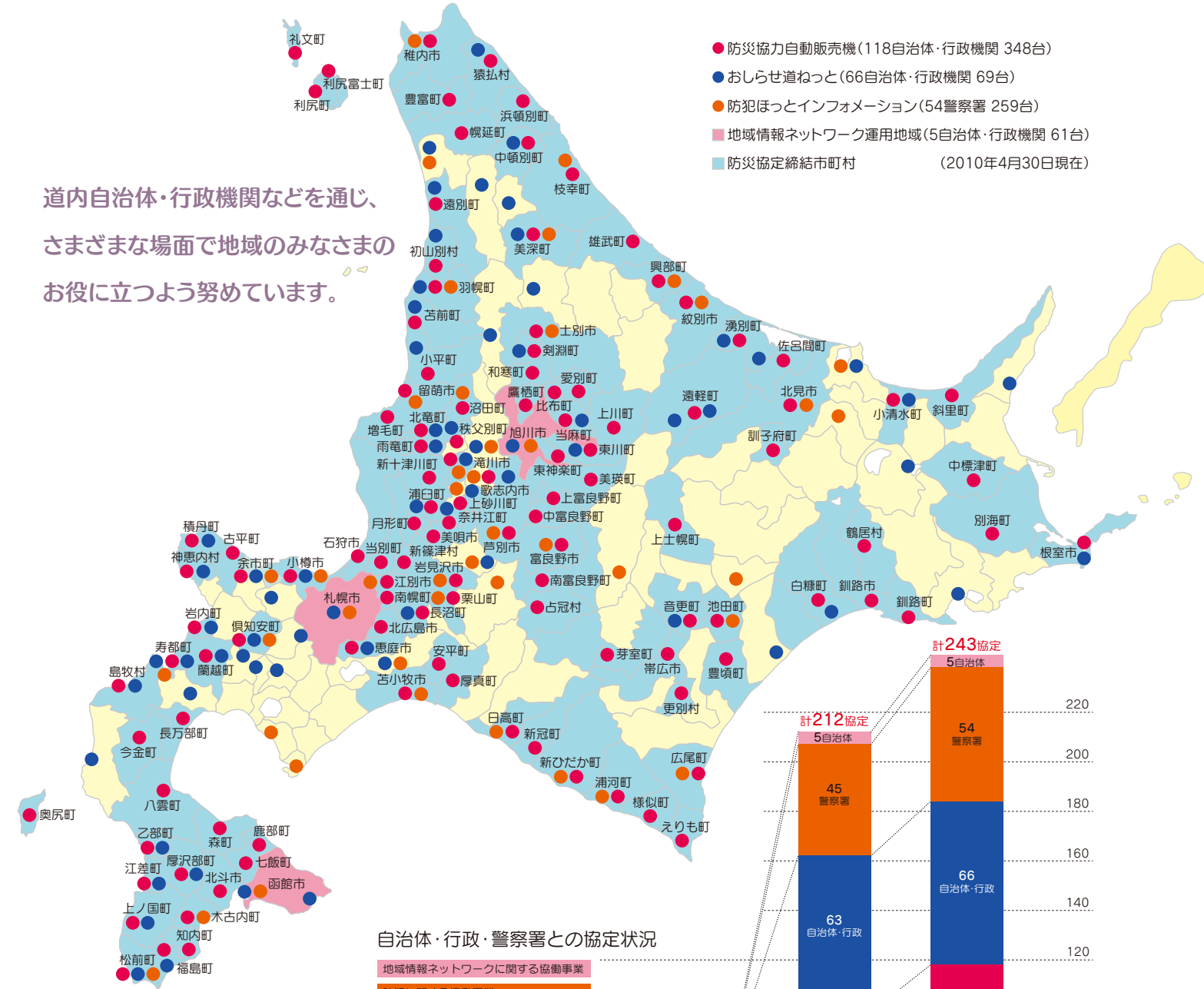


魅力的なまちづくりを応援

旭川市とは「デジタル通信あさひかわ」、札幌市とは「円山動物園情報」「きよっち情報ステーション」「児童会館ネットワーク」、函館市とは「はこだて情報ステーション」として、地域のみなさまや当地を訪れる方々へ、まちの魅力や行政情報・観光情報などを配信する「地域情報ネットワーク」の取り組みを展開しています。

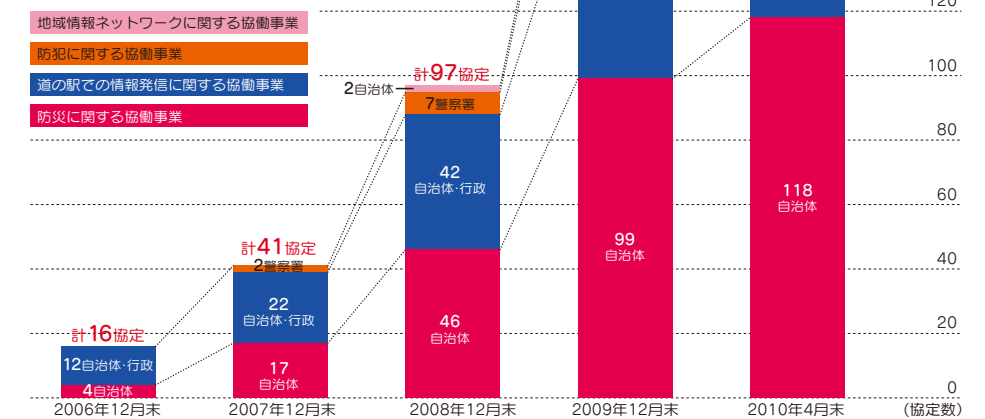


道内自治体・行政機関などを通じ、さまざまな場面で地域のみなさまのお役に立つよう努めています。



- 防災協力自動販売機(118自治体・行政機関 348台)
- おしらせ道ねっと(66自治体・行政機関 69台)
- 防犯ほっとインフォメーション(54警察署 259台)
- 地域情報ネットワーク運用地域(5自治体・行政機関 61台)
- 防災協定締結市町村 (2010年4月30日現在)

自治体・行政・警察署との協定状況



北海道内で一斉配信

2009年の「春の地域安全運動」、さらに「秋の防災週間」では、全道に展開しているすべての電光掲示板付き自動販売機から、防犯や防災に関する情報を同時刻に一斉配信し、地域住民のみなさんに安全・安心を呼びかけました。



地域みなさまに お役立ちできる自動販売機を目指して。

明日の地域社会の
元気のために。



「電光掲示板付き自動販売機」

パソコンからのインターネットを活用した遠隔操作により、自動販売機の上部に搭載されている電光掲示板に文字情報をリアルタイムで表示できます。また、同様の操作により、自動販売機内の飲料を無料提供することも可能です。この機能を活用して、自治体や行政から防災・災害情報をはじめ、地域



のイベント情報などの各種情報を配信するとともに、災害発生時には自治体の判断で飲料の無料提供を実施します。

自動販売機の消灯を実施

屋外設置自動販売機の昼間消灯や屋内設置自動販売機の24時間消灯等の取り組みを進めています。



住所表示のステッカーを貼付

屋外設置の自動販売機には住所を表示し、事件・事故など緊急時に通報する際、場所の特定ができるよう取り組んでいます。



地域のスポーツ応援団

地域のスポーツ行事に関するお知らせを自動販売機内に掲示し、大会を盛り上げています。



全日本少年アイスホッケー大会

自動販売機の使いやすさ向上

EdyやiDなどの各種電子マネーに対応したマルチマネー自動販売機の導入を進め、利便性の向上を図るほか、さまざまなプロモーションを展開しています。



防災マップの掲示

斜里町では自動販売機に町で作成した防災マップを掲示しています。



地域行事を紹介

地域の小学校の行事についてのお知らせを「地域ギャラリー」として自動販売機に掲示しています。



観光地での特別ラッピング自動販売機

観光地などで、景観に合わせた特別な外装を施した自動販売機を展開しています。



網走市「道の駅 流氷街道網走」

環境にやさしい自動販売機

ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機

2005年より、フロンを使用しない自動販売機を段階的に導入し、2020年までに全面的に切り替えることを予定しています。また、効率的な加温・冷却による省エネを実現するヒートポンプ技術を使用した「ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機」の導入を積極的に進めています。



ヒートポンプ自動販売機

省エネカップ自動販売機

カップ自動販売機で業界初となるノンフロン省エネ対応自動販売機を展開しています。従来機と比べて約30%の省エネ性能となり、冷媒にはノンフロン(CO₂冷媒)を採用しています。



「ecoる/ソーラー」自動販売機

上部に搭載したソーラーパネルの蓄電により、夜間照明の消費電力をゼロを実現した「ecoる/ソーラー」自動販売機を、2010年4月より全国で展開しています。このほかノンフロン・ヒートポンプ機能を搭載、ディスプレイ部分にはLED照明を採用するなど環境に配慮しています。

ソーラー自動販売機



誰からも親しまれ、 信頼される企業であるために。

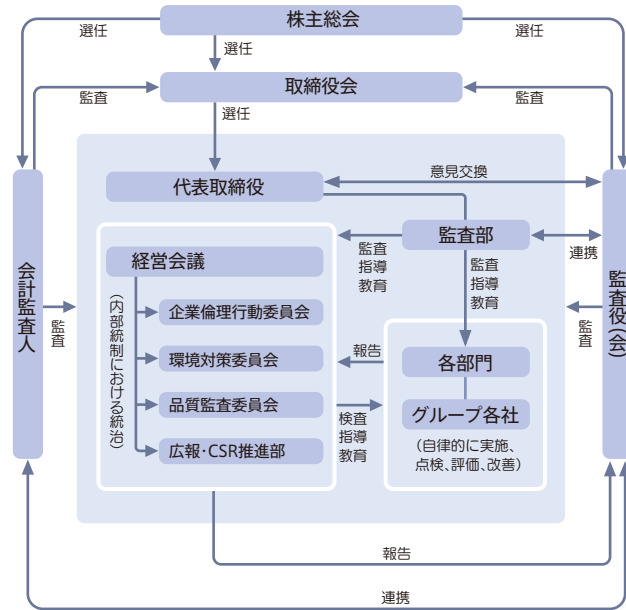


企業としての社会的責任を果たす

コーポレートガバナンス

企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー(利害関係者)と良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務遂行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的にコーポレートガバナンスの充実が図られるよう努めています。

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図



内部統制システム

会社法の施行にともない「業務の適正を確保するための体制の基本方針」について取締役会決議し、併せて北海道コカ・コーラグループの内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得に資すること

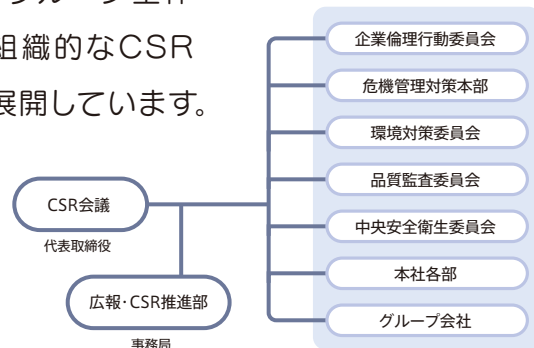
を目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を制定しました。また、ステークホルダーに対する適切な情報開示とグループ経営基盤強化の一環として、金融商品取引法に対応するための「内部統制の基本方針書」も制定し、財務報告に係る内部統制の適切な整備・運用および、その評価・報告を毎期継続して行うことに努めています。

危機管理体制の強化

当社は、天災・製品事故等が発生した際の対応手順である「危機管理マニュアル」を制定すると同時に、危機管理対策本部・品質監査委員会などの設置によってリスク管理体制を構築しております。また、コカ・コーラシステムの危機管理システム(IMCR)との連携や研修等を通じ、リスク管理対応力を強化しています。

CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ会社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体として組織的なCSR活動を展開しています。



企業倫理活動への取り組み

良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、社員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンルーム」を運用しています。

個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、eラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

出発前のIT点呼

幸楽輸送(株)では、遠隔地においてもITを活用した点呼を実施し、運転免許証の確認を行うほか、医療用血圧計を連動させ、血圧の記録を送信・管理することで従業員の健康管理に取り組んでいます。

休業支援の取り組み

仕事と家庭生活の両立を図ることを目的に「育児・介護休業法」の定めに基づいた、育児休業制度、介護休業制度、子どもの看護休暇、所定労働時間を最大3時間短縮する育児短時間勤務制度のほか、所定外労働時間の免除、育児のための時差勤務制度を設け、安心して働くことのできる休業支援体制を整備しています。

障がい者の雇用について

障がい者の雇用率は2.6%と法定雇用率(1.8%)に達しています。これからもハローワーク等の求人活動を通じて、積極的に障がい者雇用を実現していきます。



応急手当協力施設の証

緊急時の対応に備え、これまでに本社構内で延べ51名の社員が普通救命講習を修了し、救命技能士として認定され、札幌市清田消防署より「応急手当協力施設の証」をいただきました。

従業員から

仕事と家庭の両立ができました

生産管理部 生産管理第一課 山田 純子

私は主に道外のボトラーから製品を購入する業務に携わっています。産休・育児休暇を1年3ヵ月取得し、2009年の4月に職場復帰をしました。最初は仕事と家庭の両立ができるか不安だけでしたが、短時間勤務制度を利用することで、子どもとの時間を大切にしながら働くことができています。家族や職場の方々には理解・協力していただき本当に感謝しています。



楽しい工場見学を目指しています。 ぜひお越しください。

北海道の未来のために、
一所懸命な会社です。



ようこそ!札幌工場へ

当社では、創業以来「工場見学ツアー」を実施しています。「製品ができるまで」を案内員がわかりやすく説明するほか、コカ・コーラの歴史や環境への取り組み、地域活動などを紹介しています。

2009年は15,000人以上のお客さまに見学いただきました。



わくわくコミュニケーションルームでのVTR上映

さまざまなイベントを実施

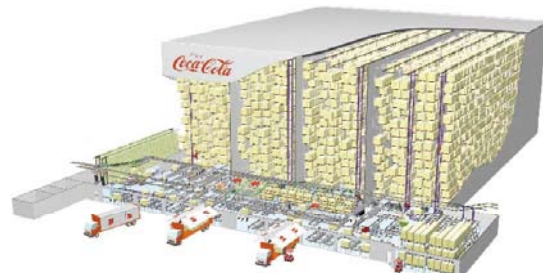
札幌工場では、2009年3月に親子で「水」と「エコ」について学べるイベントを開催し、世界の水クイズ、ペットボトルや空き缶の分別、またエコバック作りを行いました。



また、同年12月には「コカ・コーラのクリスマス工場見学」を実施し、通常の工場見学に加えてクリスマスツリーなどの工作、Qooとの写真撮影会、食育



体操を行ったほか、北海道日本ハムファイターズのマスコットキャラクター「B・B」がサンタクロース姿で登場しました。



製品を自動で入出庫する高さ31mの立体自動倉庫の内部を見学することができます

沿革

1963年 1月	北海道飲料株式会社として設立
3月	コカ・コーラおよびファンタの販売を開始
9月	商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
12月	本社工場竣工(製品第1号誕生)
1965年 10月	コカ・コーラ250ml缶の販売を開始
1966年 4月	コカ・コーラホームサイズ(500ml)の販売を開始
1967年 12月	本社工場に第2ラインを増設
1970年 3月	本社工場に第3ラインを増設
1971年 5月	本社工場に第4ラインを増設
10月	スプライトの販売を開始
1972年 2月	コカ・コーラ350ml缶の販売を開始
11月	第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援 本社工場に缶ラインを増設し、缶製品の自社生産を開始
1973年 4月	東北満庵株式会社と合併、株式の額面金額を変更
8月	株式を東京証券取引所市場第2部および札幌証券取引所に上場
1976年 4月	ジョージアコーヒーの販売を開始
1982年 4月	機能性飲料 リアルゴールドの販売を開始
1983年 5月	スポーツ飲料 アクエリアスの販売を開始
1988年 10月	本社ビル竣工(創立25周年記念事業)
1991年 4月	カナダドライジンジャーエールの販売を開始
1992年 3月	ティー飲料 紅茶花伝の販売を開始
1994年 3月	ティー飲料 爽健美茶の販売を開始
1998年 3月	ティー飲料 燐の販売を開始
1999年 5月	創業以来10億ケースの販売を達成
7月	ダイエットコカ・コーラの販売を開始
11月	果汁飲料 Qooの販売を開始
2001年 6月	紙パック製品(プリパック)の販売を開始
2002年 5月	日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援
11月	本社工場に立体自動倉庫を新設
2003年 1月	本社工場に無菌充填ラインを増設
2005年 1月	本社工場を札幌工場に名称変更
3月	札幌工場リニューアル ティー飲料 ー(はじめ)の販売を開始
2006年 3月	コカ・コーラ社製品の製造を行う「北海道コカ・コーラボトリング株式会社」を設立
5月	コカ・コーラ生誕120周年
7月	ティー飲料 からだ巡茶の販売を開始 「子どもの安全を見守る運動」を開始
2007年 2月	全社で「ISO9001:2000」の認証を取得
6月	コカ・コーラゼロの販売を開始
2008年 5月	「ジョージア サントスプレミアム北海道限定デザイン缶」の売上金の一部を北海道へ寄付
7月	札幌市円山動物園に「nature cafe EARTH(ネイチャーカフェ・アース)」を出店
2009年 5月	ミネラルウォーター「いろはす」の販売を開始

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 北島 義俊 代表取締役社長 角野 中原 代表取締役専務 矢吹 健次
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL(011)888-2001(総務人事部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	529名(グループ1,181名)(2010年3月31日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(26)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社	清涼飲料水及び飲料水用容器の製造 各種自動販売機の修理、設置及び撤去
北海道ベンディング株式会社	自動販売機による飲料、食品等の販売
幸楽輸送株式会社	コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業
北海道サービス株式会社	一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・貸出、書籍等の販売、 事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産および損益の状況の推移

区分	第46期 (2007年)	第47期 (2008年)	第48期 (2009年)
売上高	73,494 百万円	71,731 百万円	62,828 百万円
経常利益	1,358 百万円	417 百万円	△479 百万円
当期純利益	835 百万円	41 百万円	△529 百万円

ツアーのご案内 (所要時間 約60分)

お客様の声にお応えし、
7~9月は土日でも
見学いただけます。

冷えたコカ・コーラと記念品を
ご用意していますので、たくさんの
みなさまのお越しをお待ちしています。

工場見学パンフレット



概要説明
15分

製造工程
立体自動倉庫見学
25分

ビデオ上映
20分

工場見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接お電話またはお手紙でご予約ください。

■見学できる時間 毎週月曜~金曜日(午前10:00~12:00・午後1:30~4:00 祝祭日も可)
※祝祭日は一部休みの日もあります。 ※7~9月は土日でも見学いただけます。

■所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます。)

■場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

お申し込み・お問い合わせ **011-888-2091** (広報・CSR推進部 広報課)



ボクはクマガラ。
体長50cmにもなる日本最大のキツツキ。
シマフクロウとならんで北海道を象徴する
森の鳥なんだよ。
ボクが暮らすには食べ物が豊富にある
広大な森林が必要で、
豊かな自然の証ともいえるんだ。
このレポートでは、
北海道コカ・コーラボトリングの想いを伝える
ナビゲーターとして活躍してるよ。



編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2010」は、当社グループのCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー(利害関係者)のみなさまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

【対象期間】

2009年1月1日～2009年12月31日。実績データは2009年度、活動内容の一部は2010年度も含まれます。

【対象組織】

原則的にグループ連結会社を対象としています(「グループ会社の概要」参照)。

【ご意見・ご感想】

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただきますため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]
ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>



北海道コカ・コーラボトリング株式会社 コカ・コーラ指定会社
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135(広報・CSR推進部)
ホームページアドレス <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>
COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、LOHAS、い・ろ・は・す は The Coca-Cola Companyの商標です。



2010年5月発行
次回は2011年5月の発行予定です。

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2010」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

- Q1** このレポートについての評価をお聞かせください。
- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

- Q2** 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)
- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> [コカ・コーラシステム概要] | |
| <input type="checkbox"/> [トップ・コミットメント] | 北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業です。 |
| <input type="checkbox"/> [環境経営] | 自然と共存することのできる事業活動を目指しています。 |
| <input type="checkbox"/> [環境への取り組み] | <input type="checkbox"/> 水が大地をめぐるように、資源も「循環する社会」へ。
<input type="checkbox"/> あなたの街で、地域のどこかで、確かな力を未来へ伝えていきます。
<input type="checkbox"/> 事業活動を通じて、環境活動を実践しています。
<input type="checkbox"/> いま北海道の空気を、水を、そして大地を見つめて。 |
| <input type="checkbox"/> [安全な製品の提供] | あしたへ、あなたへ、変わらない「品質」と「安心」をお届けします。 |
| <input type="checkbox"/> [魅力ある地域づくり] | 地域に元気をつくる、笑顔のふれあいを大切に。 |
| <input type="checkbox"/> [地域社会への貢献] | <input type="checkbox"/> 地域の声を、まっすぐに受けとめて。
<input type="checkbox"/> 地域社会に、「安全と安心」の輪を広げます。
<input type="checkbox"/> 全道へ、お役に立つネットワークづくり。
<input type="checkbox"/> 地域のみなさまにお役立ちできる自動販売機を目指して。 |
| <input type="checkbox"/> [職場環境への取り組み] | 誰からも親しまれ、信頼される企業であるために。 |
| <input type="checkbox"/> [工場見学] | 楽しい工場見学を目指しています。ぜひお越しください。 |
| <input type="checkbox"/> [プロフィール] | |

- Q3** どのようなお立場でお読みになりましたか？
- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

.....

.....

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

性別/ 男性 年齢/ 16歳未満 16～20歳 21～25歳 26～30歳 31～40歳
 女性 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71歳以上

アンケート送付先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135



011-883-0249

